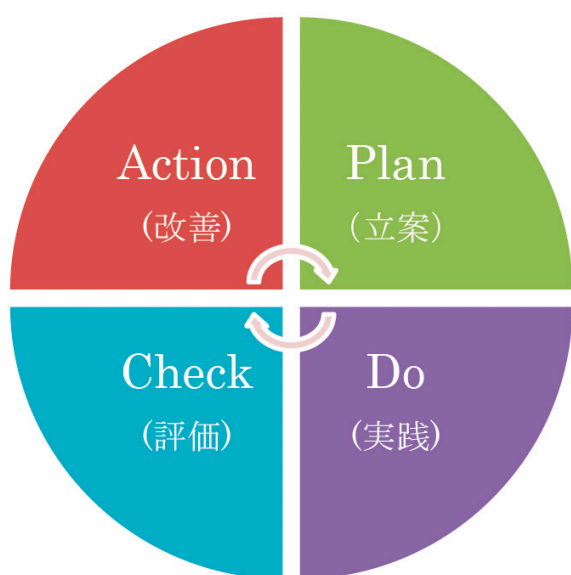


医療の安全性を守る 「安全管理部門」

安全な医療を提供することは、医療機関において最も基本となる部分です。当院では皆様が安心して医療を受けられる環境を整備するために、安全管理部門が組織されています。



心理的安全性の高いチームとは「**地位や経験にかかわらず、誰もが率直な意見・素朴な疑問を言うことができる組織・チーム**」です。ハーバード大学のエイミー・C. エドモンドソン教授の研究によると、「治療成績の良いチームの方が“ミスの数”が多かった」という結果でした。矛盾しているようですが、これはいったいどうことでしょうか？実は、「ミスの数が多かった」ではなく、「ミスの報告数が多かった」ということでした。「ミスをしたときに言える」のが心理的安全性の高い組織・チームということです。ミスがあってもそれについて語ることができるチームは**失敗からの回復**が可能です。

医療事故の発生を防ぐ

安全管理部門では、院内で生じた医療事故や、事故に至りそうになった事例情報を収集・分析し、再発防止策を立案しています。更に、立案された再発防止策が正しく実践されているか、効果的に機能しているか評価します。このような活動によって、より重大な医療事故が生じないようにすることが安全管理部門の役割です。

職員への教育、研修の実施

医療安全を構築するためには、安全管理部門の活動だけではなく、職員一人ひとりが医療安全に必要な知識・技術を習得することが重要です。

安全管理部門では、職員の安全管理にかかわる能力向上を目的とした職員研修を行っております。研修テーマ「医療現場に必要な心理的安全性とは」を以下にご紹介します。

研修事例

医療現場に必要な心理的安全性とは

その逆に、心理的安全性の低いチームとはどのようなチームでしょうか？ミスがあった際に「責められる」「罰を与えられる」といった経験があると、ミスを容易に報告することができなくなります。その結果、ミスに気付かずに治療が継続されれば、良い結果になるはずがありません。

今回の研修では、どんなことでも躊躇なく言い合えるチーム環境が重要であることを学びました。「うっかり」「思い込み」など、人は誰でもミスをします。そんなとき、お互いに指摘しあえる風通しの良い職場環境を構築し、ミスが事故に繋がらない安全な医療の提供に貢献していきたいと考えております。